

鳳龍式号と共に学んだ3ヶ月 in Naples

工学府先端機能システム工学専攻M1 高橋 明敏

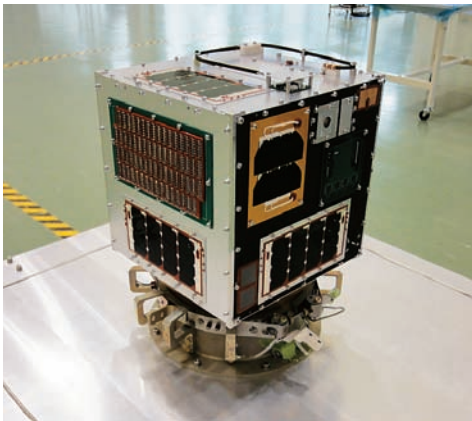


はじめに

2012年10月1日から5日までイタリアのナポリで行われた第63回国際宇宙会議に参加しました。本学会は世界各国から宇宙に関する研究開発に携わっている人が参加していました。ブースは29ものセクションがあり、私はSpace Weather and Effectsのセクションで高電圧技術実証衛星「鳳龍式号」の軌道上でのミッション結果に関して発表しました。

高電圧技術実証衛星 「鳳龍式号」

高電圧技術実証衛星「鳳龍式号」



鳳龍式号

は九州工業大学で開発され、2012年5月18日に種子島宇宙センターからH2Aロケットで打ち上げられました。鳳龍式号は将来の高電圧技術の第一歩を踏み出す衛星として世界初の軌道上での300V発電技術が搭載されています。発電ミッションを軌道上で実施した結果、見事世界初の300V発電に成功しました。これに加え鳳龍式号には放電抑制技術の検証や地球撮影など7つのミッションが搭載されています。鳳龍式号は現

在でも順調に運用ができており、様々なデータを取得し、今後の衛星開発に活かせるように努力しています。

国際学会で学んだこと

私は今回の国際学会に参加し、多くのものを得ることができました。特に実感したのが英語の重要性です。移動、宿泊等の日常英会話は問題なく、学会発表本番でも何度も練習した成果を発揮し、時間内に発表を終えることができました。しかし、発表に対する質疑応答では相手の質問内容を理解できず、座長の助けなしに回答することができませんでした。

また他の研究者の発表は大まかな内容は理解できますが、詳細な内容は聞き取ることができず、非常に不安な気持ちになりました。国際学会での英会話能力を身につけるために、平日頃から研究室の留学生と積極的に英語で会話するよう努力していましたが、自分の英語力が不十分であることを痛感しました。残りの学生生活で再度国際学会に参加し、国外の人と技術交流や議論ができるようになることが今の目標です。また自

分と同じ世代の学生が世界で活躍していることを知り、自分も他の学生と同じように世界で活躍し、宇宙開発の最前線で活躍してみたいと考えようになりました。

謝辞

今回このような貴重な体験を援助していただきました明専会及び、論文執筆、発表に対してご指導していただいた趙孟佑教授に厚く御礼申し上げます。また、衛星開発プロジェクトのメンバーにも感謝を申し上げます。



発表時の様子